

はじめに

一気に広がったSDGs

2015年9月にSDGs（持続可能な開発目標）が国連で採択されて以来、国内外でSDGsに関する取り組みが急ピッチで進んでいます。とりわけ、2021年になってからの国内での動きは大きく、日本政府は世界に向けて、2030年までの温室効果ガス排出量を、2013年比で46%削減することを発信しました。これまでの目標が23%削減であったことを考えると、脱炭素社会を目指す取り組みとして、極めて大きな前進です。また、最近のテレビでは、地球環境、食品ロス、地方創生など、毎日のようにSDGsに関する取り組みが報道されています。もはやSDGsは、一部の人たちの関心事ではなく、国民一人ひとりが考えるべき具体的な課題となっているのです。

脱炭素社会へ向かう社会

SDGsには17の目標がありますが、最も優先度が高く影響力の大きい課題は、気候変動の原因とされる地球温暖化をいかに食い止めるかということです。そのためには、石炭や石油といった化石燃料に依存した現代社会の生活様式や経済構造を変えなくてはなりません。たとえば、レジ袋が有料化されたり、住宅に太陽光パネルを取り付けたり、国内自動車メーカーが、電気自動車の開発を本格化していたりと、脱炭素社会の実現に向けて、社会は確実に変化していることが実感できるはずです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsを自分に引き寄せて考える

イギリスでは、2030年までに、ガソリン車とディーゼルの新車販売を禁止するというのが決定しています。では、仮に世界中の自動車に電気自動車に変われば、地球温暖化が確実に防げるのでしょうか。答えはNO。電気自動車の動力となる電気が、火力発電主流の供給体制のままであるならば、何ら問題は解決されません。電気を作るために、これまで以上の石炭や石油を燃やさなくてはならないからです。問題が大きすぎて、自分とは関係がない、と思われるかもしれませんが、しかし、大切なことは、地球温暖化を防ぐために、自分ならどんな取り組みができるかを考えることです。たとえば、エアコンの利用の仕方を工夫したり、こまめに電気のスイッチを切ったりして、ムダな電力を使わないといったこと。これは、ほんの小さな変化ですが、国民全体が取り組めば大きな変化となります。このように、SDGsは、さまざまな課題に対する一人ひとりの取り組みやアイデアを、多様な人たちと共有し、協働へと変えていくムーブメントとなっているのです。

SDGsの基本を知り社会的関心を広げる

SDGsに対する取り組みや考え方が、新しい教科書や近年の高校入試問題に盛んに取り上げられています。日本ならではの「少子高齢化」「地方創生」などの課題も含め、SDGsの基本を知り、社会的関心を広げることは、進歩しても、社会に出てからも、これからの時代を生き抜くみなさんにとって必要不可欠な力となることでしょう。本冊子が、SDGsに関心を持つきっかけとなることを願っています。

CONTENTS

【特集】SDGsを扱った公立高校入試問題 11題を解いてみよう！	2
【第一部】SDGsを知ろう	
SDGsと日本の課題	8
世界で達成をめざすSDGs	8
日本の課題とアクションプラン	10
もはや入試に「SDGs」はあたりまえ？	12
どうしてSDGsを学ばなければいけないのか	14
【第二部】身のまわりの課題を知ろう	
①気候変動に関すること	16
②技術革新に関すること	20
③生態系に関すること	24
④地方創生に関すること	28
⑤食料問題に関すること	32
【資料】SDGs17の目標と主な課題	36

特集 SDGsを扱った公立高校入試問題 11題を解いてみよう!

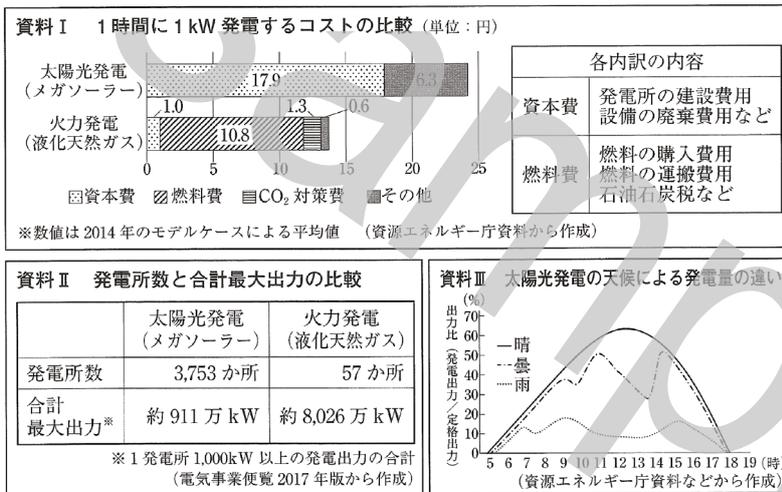
公立高校入試でのSDGsに関する出題がここ数年で増加しています。出題が最も多いのは社会科で、さまざまな資料を読み解く記述問題によって、SDGsの課題がズバリ問われています。英語では、読解問題や英作文問題において、SDGsを扱ったさまざまなパターンの出題が見られます。

以下に、社会科5題、英語4題、理科1題、国語1題、計11題の頻出かつ代表的な問題を掲載しています。SDGsのどんな課題が扱われているのかに注意しながら解いてみましょう。(社会科5題は、すべて資料の読み取りがメインなので、中学1年生でも解けます。【解答のヒント】に従って、わかったことを書いてみましょう。解答はP.7です。)

問題 1 社会科

火力発電と太陽光発電、それぞれの利点と課題が読み取れますか?

次の資料Ⅰ、資料Ⅱは、火力発電と太陽光発電のコストや出力などを比較したものです。また、資料Ⅲは、太陽光発電の天候による発電量の違いについて示したものです。今後、広く日本で太陽光発電を導入する場合、どのような利点と課題が考えられますか。利点と課題の両方について、それぞれ一つの資料を選んで示し、その資料に基づいて簡単に書きなさい。ただし、利点と課題で同じ資料を用いないこととします。



【解答のヒント】

・Ⅰ～Ⅲの資料はそれぞれ何についてまとめたものでしょうか?
 ・それぞれの資料からわかることは何でしょうか?
 上の2点を読み取れたら、資料をもとに「太陽光発電は○△だが、火力発電は△△」の形式に当てはめて文章にしてみましょう。

【解答のヒント】

ガソリン車に比べ、圧倒的に環境にやさしい印象が強い電気自動車。そのことは表Ⅲからもわかります。ただし、電気自動車は“電気”で走る自動車。発電方法や発電量が異なれば、電気自動車は必ずしも環境にやさしい自動車ではなくなります。日本の電気自動車が抱えている課題はどこにあるのでしょうか?発電時の二酸化炭素排出量にも注目して考えてみましょう。

問題 2 社会科

ガソリン車から電気自動車(EV)への転換 日本に立ちはだかる大きな課題とは?

世界各国でガソリン車から電気自動車(EV)への転換を目指す「EVシフト」が広がっている。下の表Ⅲは、自動車一台が1km走るときの二酸化炭素排出量(g/km)を示したものである。また、次の文は表Ⅲをもとに述べたものである。文の **a** には資料のS～Uから適切なものを選びその記号を書き、**b** にはあてはまる内容を簡潔に書け。ただし、**b** には次の語を必ず用いること。なお、具体的な数値を示す必要はない。

語 **二酸化炭素**

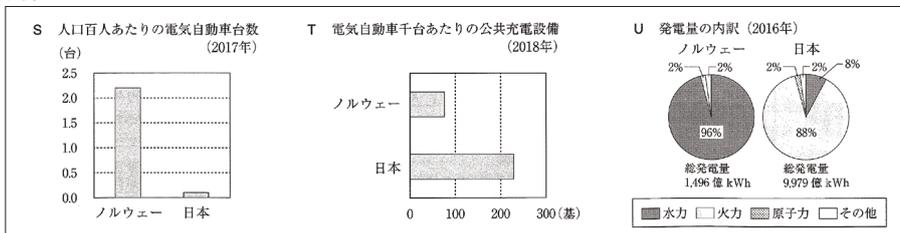
表Ⅲによると、電気自動車はガソリン車に比べて二酸化炭素排出量が少ないことがわかる。さらに、ノルウェーと日本の電気自動車の二酸化炭素排出量を比べると大きな差があることが読みとれる。このような大きな差が生じる理由について、資料の **a** を用いて考えると、ノルウェーに比べて日本は **b** からであるといえる。

表Ⅲ

		自動車一台が1km走るときの二酸化炭素排出量(g/km)		
		エネルギーをつくる時	走行時	総量
ガソリン車	世界平均	25	107	132
	ノルウェー	1	0	1
電気自動車	日本	59	0	59

(注)「エネルギーをつくる時」は、自動車一台が1km走るために必要なガソリンまたは電気をつくるときに排出される二酸化炭素排出量を示している。(経済産業省資料から作成)

資料



(資料のS～Uは『世界国勢図会 2019/20』などから作成)



< 2020年度 長崎県 >